

子供の電気ポットに関する事故事例等

【国内】

- 東京都が把握した事故事例として、2013 年度以降、電気ポットに起因するやけど¹と考えられる 5 歳以下の事故事例は 206 件で、そのうち要入院と判断された事例は 51 件であった。
- やけどをした子供の年齢は 1 歳以下が多く、特に 6～11 ヶ月に多かった。
- 事故の原因に関する状況が判明している 139 事例のうち 85%に相当する 118 事例が、電気ポットの転倒が原因であり、その他、ボタンを押した、蒸気に触れたなどの事例が報告されている。
- 電気ポットが置かれていた場所が判明している 66 事例のうち 29 件がテーブル、20 件が床、17 件が棚・キッチン台であった。
- 2013 年度に東京都が実施したヒヤリ・ハット調査「乳幼児のやけどの危険」アンケートでは、0 歳から 6 歳の子供をもつ 20 歳以上の男女 3,000 人のうち、電気ポットによるやけどの経験がある 20 件 (0.7%)、やけどしそうになったヒヤリ・ハットの経験がある 73 件 (2.4%) だった。

用語の定義

- ・「**危害**」経験とは
やけどをした経験
- ・「**危険**」経験とは
転倒するなどして、お湯がこぼれたが、やけどはしなかった経験
- ・「**ヒヤリ・ハット**」経験とは
実際にはやけどには至らなかったが、危ないと感じた経験

本資料の事故事例において「電気ポットに起因」と分類したのは下記のとおり

- ・「ポット」の記載がある。
- ・電気湯沸器であると推測される。
- ・メーカー名、容量、製品や状況に関する情報等から「ケトル」「ポット（魔法瓶・水筒）」と推測されるものは除いた。
- ・また、ポットから注いだ熱湯によるやけど、ポットを持って転倒したなどの事例は除いている。

¹ やけどの程度や特徴について、本資料末に掲載。

1. 東京都が把握した事故事例

東京都が把握した事故事例として、2013年度以降、電気ポットに由来する5歳以下のやけど事故で救急搬送や受診に至った事故事例は206件、うち要入院と判断された事例（中等症以上）は51件であった。

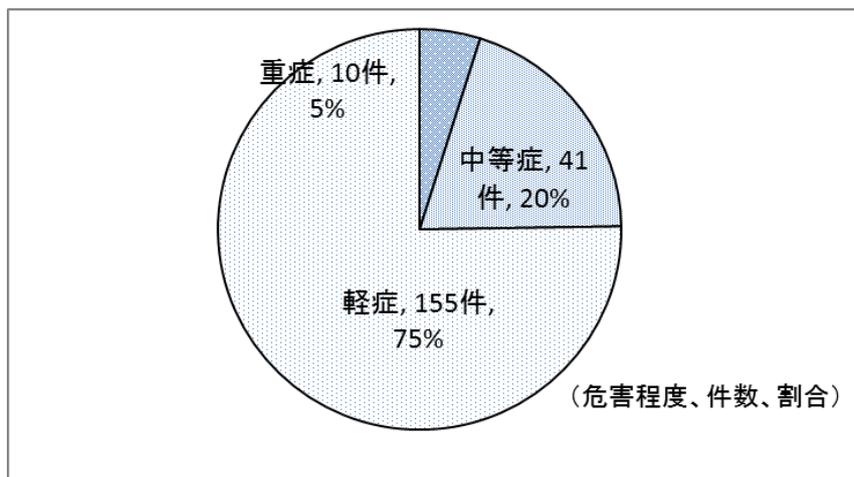
なお、「明らかにケトル」「明らかに魔法瓶」の事例は除いたが、ケトルや魔法瓶を「電気ポット」「ポット」と呼ぶこともあることから、ほとんどの事例が明らかに電気ポットに起因するとは断定できない。

表1 2013年度以降把握事例件数

	受診・救急搬送
東京消防庁救急搬送事例	153 (42)
医療機関ネットワーク ² 等 ³ 受診事例	53 (9)
合計	206 (51)

注1) カッコ内は要入院判断の件数

注2) 搬送事例と受診事例は、一部重複の可能性あり（以下同様）



注) 医療機関ネットワーク事例のうち軽症で要入院の事例1件は、中等症に含めた。

図1 把握事例の危害程度の割合

² 医療機関ネットワーク事業により得られた事故の情報。消費者庁と独立行政法人国民生活センターとの共同事業として、2010年から実施している。全国の23病院（2017年10月時点）が参画し、消費者からの苦情にはなりにくい事故の情報（消費者の不注意や誤った使い方も含む）を幅広く収集している。

³ 医療機関ネットワーク及び国立研究開発法人国立成育医療研究センターから事故事例の提供を受け、提供情報の範囲で同一事故と思われるものは除いて集計した。

(1) 「危害」のうち、要入院と判断された事故事例

東京都が把握した電気ポットに起因する事故事例のうち、要入院と判断された事例は 51 件だった。これらの事例を以下に示す。

(ア) 東京消防庁

2013 年 4 月から 2018 年 3 月に、電気ポットに起因する事故により東京消防庁管内で救急搬送された 5 歳以下の中等症以上の事故事例は 42 件であった。(前述のとおり、事故事例のすべてが電気ポットに起因するとは断定できない。)

No	発生年	年齢	事故(危害)の内容	
1	2013 年 6 月	1 歳 女児	中等症	傷病者が電気ポットのコードを引っ張った際に、電気ポットに入っていたお湯が傷病者の左顔面付近にかかった。
2	2013 年 7 月	8 ヶ月 男児	重症	自宅にて床上に置いてあったポットを自分で倒してしまい、こぼれ出た熱湯で手部・足部を受傷したものの。
3	2013 年 10 月	9 ヶ月 男児	重症	自宅で息子が床に置かれたポットを倒し、中に入っていたお湯が体にかかってしまったため救急要請となったものの。
4	2013 年 10 月	8 ヶ月 女児	中等症	居室内で、歩行器を使用しながら歩行していたところ、近くにあった電気ポットが倒れ、熱湯が全身にかかった。
5	2013 年 10 月	7 ヶ月 女児	中等症	自宅居室内において、机の上にあったポットを娘が誤って倒し、右腕にポットの熱湯がかかり受傷したものの。
6	2013 年 11 月	8 ヶ月 男児	重症	乳児に電気ポットの熱湯が腹部と両手にかかり乳児が熱傷したものの。
7	2014 年 1 月	8 ヶ月 女児	中等症	自宅で湯を沸かしていたところ、8 ヶ月の娘が誤ってポットをひっくり返し腹部を受傷したため、母親が救急要請したものの。
8	2014 年 2 月	7 ヶ月 男児	中等症	床の上に置いてあるポットのコードに子供が引っ掛かりひっくり返し沸騰した湯(最高 100 度)をかぶってしまったものの。
9	2014 年 2 月	6 ヶ月 女児	中等症	自宅においてポットで温めたお湯を娘の左腕と左足に掛けてしまい火傷してしまったもの。
10	2014 年 4 月	2 歳 女児	中等症	電気ポットのお湯を左下肢に被り受傷したものの。
11	2014 年 5 月	1 歳 男児	中等症	自宅において、約 70 度の熱湯が入ったポットを倒してしまい、頭から熱湯をかぶり受傷したものの。
12	2014 年 5 月	1 歳 男児	中等症	電気ポット内のお湯により熱傷したものの。
13	2014 年 5 月	11 ヶ月 男児	中等症	普段は届かない位置にある湯沸かし器のポットに手が届いてしまい、お湯をかぶり受傷したので救急要請したものの。
14	2014 年 6 月	8 ヶ月 男児	中等症	台所床上においてあったポット(1L 入り)を這い這いをしていた際に倒し、熱湯がこぼれ腹部、足部に火傷を負ってしまった。
15	2014 年 7 月	8 ヶ月 男児	中等症	湯沸かしポットを子供が誤って倒した際に湯がかかり、熱傷を負ったもの。
16	2014 年 7 月	8 ヶ月 女児	中等症	ポットのお湯が誤って右足にかかってしまい受傷したものの。
17	2014 年 8 月	11 ヶ月 男児	中等症	自宅居室内でポットのお湯が体にかかり受傷したところを家族が目撃したものの。

18	2014年 9月	3歳 女児	中等症	居室内の物置に置いていたポットの電気コードに引っ掛かりポット内の熱湯がかかったもの（母親談）。
19	2014年 10月	10ヶ月 男児	中等症	住宅居室内にて、床でポットのお湯を沸かしていたところを倒してしまい火傷を負ったもの。
20	2015年 3月	9ヶ月 女児	中等症	自宅キッチンカウンターの上におかれていたポットのコンセントに触れ、ポットが転落し中に入っていた熱湯を背部に浴び受傷したもの。
21	2015年 4月	1歳 女児	中等症	ホテルの電気ポットのお湯をかぶり受傷したもの。
22	2015年 6月	1歳 女児	中等症	祖母宅居室内にて、倒れたポット付近でお湯を被ったもの。
23	2015年 7月	4歳 女児	中等症	旅行中の女児、腹部にポットの熱湯がかかり受傷したもの。
24	2015年 9月	1歳 男児	中等症	テーブルの上に置いてあった沸騰したお湯が入ったポットを息子（傷病者）が倒してしまいお湯をかぶり受傷したもの。
25	2015年 9月	9ヶ月 男児	中等症	子供が床を這っていた時に、電気ポットのコードを引っ張り、倒れたポットからお湯を浴びてしまったもの。
26	2015年 10月	10ヶ月 男児	中等症	沸かしたポットを倒し湯がかかり、両足底部を火傷したもの。
27	2015年 11月	1歳 男児	中等症	自宅で祖母が湯を沸かしポットに入れてカウンターに置いたところ、男児が下から取っ手を引っ張ってポットを倒し熱湯が身体にかかり受傷したもの。
28	2015年 12月	3歳 女児	中等症	親せき宅で、お湯が入ったポットを倒して受傷した。
29	2016年 4月	10ヶ月 男児	中等症	誤ってポットを倒し左下腿に熱湯がかかったもの。
30	2016年 5月	1歳 女児	中等症	電気ポットのコードを引っ張り、倒れた電気ポットの熱湯を被ってしまったもの。
31	2016年 8月	8ヶ月 男児	中等症	床に置いてあった電気ポットを倒して、中に入っていたお湯がかかり左手と下半身を受傷したもの。母親から救急要請。
32	2016年 10月	7ヶ月 男児	中等症	自宅内でポットのお湯がかかり受傷したもの。
33	2016年 11月	1歳 男児	中等症	自宅内のポットのお湯を誤ってこぼしてしまい、足部を受傷したもの
34	2016年 11月	1歳 男児	中等症	棚の上にあったお湯の入ったポットを倒してしまい、ポットの中の熱湯が子供にかかり、右腰背部と右上腕部を受傷したもの。（母親談）
35	2016年 12月	1歳 女児	中等症	誤ってポットのお湯を溢した際、娘の身体にかかり、受傷したもの。
36	2017年 1月	6ヶ月 男児	重症	自宅台所の食器棚、スライドする棚(高さ30cm)を引き出し、棚上に置かれたポットを倒し中の湯をかぶり受傷したもの。
37	2017年 6月	2歳 女児	重症	自宅居室内でポットに入った熱い麦茶を、子供が誤ってこぼし受傷。母親が救急要請したもの。
38	2017年 8月	9ヶ月 女児	重症	9ヶ月の女児、自宅で電気ポットの熱湯がかかり受傷したもの。
39	2017年 8月	7ヶ月 男児	中等症	自宅でポットのお湯が誤って子供の身体にかかって受傷したもの。
40	2017年 9月	2歳 女児	中等症	親戚宅でテーブルに置かれたポットを倒して熱湯を体に浴び、受傷したもの。

41	2017年 12月	8ヶ月 女児	中等症	自宅でお湯の入ったポットを倒し、右下肢を熱傷したものの。
42	2018年 2月	1歳 男児	中等症	息子が誤ってテーブル上のポットを倒し、右上下肢に熱湯をかぶってしまったものの。

注1) 初診時程度が、中等症（生命の危険はないが、入院を要するもの）及び重症（生命の危険が高いと認められるもの）の救急搬送件数

注2) 東京消防庁管内（東京都のうち、稲城市、島しょ地区を除く地域）の救急搬送事例。本資料では、2013年4月から2018年3月までの東京消防庁管内の事例を収集した。なお、2017年と2018年の数値は暫定値。

注3) 1歳以上は月齢不明。

情報提供) 東京消防庁

(イ) 医療機関ネットワーク等

医療機関ネットワークに2013年4月1日～2018年3月31日の期間に伝送された事例のうち要入院事例は9件であった。(前述のとおり、事故事例のすべてが電気ポットに起因するとは断定できない。)

	発生年	年齢		事故(危害)の内容
1	2014年 01月	11ヶ月 男児	要入院 中等症	旅行中ホテルで沸騰中のポットが倒れ熱湯がかかった。入院し点滴投与し軟膏処置にて経過観察中。
2	2014年 08月	1歳5ヶ月 男児	要入院 重症	保護者は台所で調理をしていた。小さな椅子を使いその横で流し台の上の炊飯器で遊んでいた。保護者は注意してみていたが、目を離れたすきに炊飯器の隣のポットのお湯をこぼし全身にお湯をかぶっていた。すぐに冷却し当院に搬送された。広範囲熱傷にてデブリードマンおよび植皮を行い27日間入院した。熱傷部：右あご。右腋窩から胸部、前胸部、臍下部まで連続。右陰囊と陰茎。左臀部。両大腿。左下腿。
3	2014年 08月	11ヶ月 女児	要入院 中等症	自宅で台所のテーブルの上にあったポットを保護者が目を離れたすきに倒した。やけどを負い、入院加療。
4	2015年 10月	11ヶ月 女児	要入院 軽症	自宅にて伝い歩きをしていた際、ポットを倒し熱湯で熱傷を受傷。左足底半分の水疱形成あり。右足底全体に水疱形成あり。右膝に2か所の水疱形成あり。熱傷Ⅱ度・熱傷範囲4%。
5	2016年 02月	7ヶ月 女児	要入院 重症	台所で歩行器を使って歩いていたところ、ポットを自分でひっくり返し受傷。右上肢、右大腿、右側体幹全面にかけて広範囲熱傷あり。入院管理の下、約1ヶ月後皮膚移植術施行。
6	2016年 05月	9ヶ月 女児	要入院 重症	保護者が目を離れた隙に児が床に置いてあったポットを倒してしまった。児の両足にお湯がかかり熱傷。近医受診し当院へ救急搬送となる。下腿Ⅱ～Ⅲ度熱傷で入院。約1ヶ月後退院。
7	2016年 11月	1歳0ヶ月 男児	要入院 中等症	台所から子どもの泣き声が聞こえたので、隣室から見に行った。棚にあった電気ポットが床に落ちており、子どもが火傷を負っていた。すぐに風呂場に連れて行きシャワーで冷やしながら救急要請をした。電気ポットは子どもが手を伸ばして届く場所に置いてあった。付属電気コードは背面にあり引っ張ることができる状況ではなかった。また、台所には子どもも自由に出入りできるようになっていた。発見した保護者と2人で自宅にいた際に発生したが、保護者は隣の部屋におり目撃はしていない。熱傷部位は左上肢、体幹、下肢にかけて広範囲であり、熱傷処置のため入院した。 熱傷部位：体幹、右上肢、右大腿 35% 熱傷深度：浅達性Ⅱ度熱傷と深達性Ⅱ度熱傷の混在
8	2017年 08月	7ヶ月 女児	要入院 中等症	子どもをソファの上で遊ばせていた。背もたれにつかまり立ちをしている際に側にあった電気ポットのコードを掴んで引っ張り本人にお湯がかかり受傷した。電気ポットはソファの横のラックに授乳用に置いていたもので、70度の設定で200-300mL入っていた。熱傷処置のために10日間入院を要した。 熱傷部位：顔面、両上肢、体幹 11% 熱傷深度：Ⅰ度熱傷6%、Ⅱ度熱傷5%

9	2017年 08月	9ヶ月 男児	要入院 重症	旅行中に旅館にてつかまり立ちした児が、台の上にあるポットを触って受傷（蓋が開いていたか不明）。服を脱がせたところ表皮剥離あり救急要請した。他院へ搬送される。受傷後生理食塩水で洗浄し、ガーゼ保護し、小児科入院。自宅が近いとのことで当院整形外科へ依頼あり、当院へリにて搬送となった。
---	--------------	-----------	-----------	---

情報提供) 医療機関ネットワーク (消費者庁・独立行政法人国民生活センター)、国立研究
開発法人国立成育医療研究センター

(2) 事故の発生状況

(ア) 年齢別発生件数

やけどをした子供の年齢は1歳以下が多く、特に6～11ヶ月に多かった。

〈東京消防庁〉救急搬送事例

	～5ヶ月	6ヶ月～	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
男児	2 (0)	38 (16)	37 (7)	4 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	86 (23)
女児	0 (0)	32 (8)	21 (5)	7 (3)	4 (2)	3 (1)	0 (0)	67 (19)
総数	2 (0)	70 (24)	58 (12)	11 (3)	4 (2)	6 (1)	2 (0)	153 (42)

注) カッコ内は要入院判断の件数

〈医療機関ネットワーク等〉受診事例

	～5ヶ月	6ヶ月～	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	計
男児	0 (0)	14 (2)	15 (2)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	36 (4)
女児	0 (0)	9 (5)	3 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	17 (5)
総数	0 (0)	23 (7)	18 (2)	6 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	53 (9)

注) カッコ内は要入院の件数

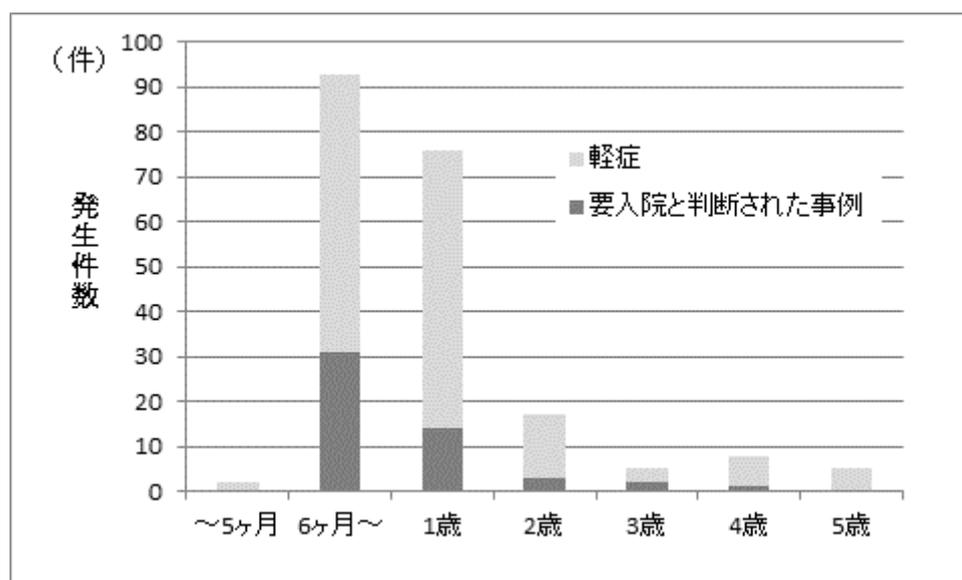


図 2 年齢別発生件数(東京消防庁と医療機関ネットワーク等事故事例の合計)

(イ) 発生推移⁴

〈東京消防庁〉

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	計
救急搬送事例	28 (9)	31 (11)	34 (8)	34 (8)	26 (6)	153 (42)

注) カッコ内は要入院判断の件数

(ウ) 事故の状況

① 原因

事故の原因に関する状況が判明している 139 事例のうち 118 事例 (85%) に相当する事例が、電気ポットの転倒が原因であり、その他、ボタンを押した、蒸気に触れたなどの事例が報告されている。

	東京消防庁	医療機関 ネットワーク等	合計 (不明を除く)
総数	153 (42)	53 (9)	139
転倒	94 (28)	24 (7)	118
ぶつかって転倒	3 (1)	0 (0)	
コードを引っ掛けて転倒	18 (6)	4 (1)	
その他・不明	73 (21)	20 (6)	
ボタンを押した等	6 (0)	9 (1)	15
蒸気に触れた	0 (0)	6 (0)	6
不明	53 (14)	14 (1)	

※「コードを引っ掛けて転倒」について、東京消防庁の要入院判断事例 6 件のうち「引っ張った」(3件)、「足で引っ掛けた」(2件)、「コンセントに手で触れていて落下」(1件)。医療機関ネットワーク等の要入院事例では「引っ張った」(1件)。

※「ボタンを押した」には、「さわっていて」などの記載による推測も含む。

※「落下」「落ちる」という文言を含む事例は、東京消防庁では事故全体で 6 件 (うち要入院判断 1 件「コンセントに手を触れていて落下」)。医療機関ネットワーク等では事故全体で 2 件 (うち要入院 1 件)。

注) カッコ内は要入院判断事例の件数

なお、ボタンを押したことに起因すると考えられる事故事例には、推測も含んでおり、具体的には下記のとおりである。

⁴ 医療機関ネットワークの参画医療機関数は時期によって変わっているため、発生推移は参照しない。

【東京消防庁】

- 自宅で母親が目を離した隙に電気ポットに手をかけ、お湯が体にかかったので母が救急要請した。(0歳7ヶ月男児、軽症)
- 自宅にて保温型ポットを触っていた際に排出ボタンを押し、お湯を右下肢背面にかけてしまった。泣いているのに気がついた父親により、救急要請された。(1歳男児、軽症)
- 祖母宅で熱湯が入ったポットを誤って操作し、腹部に熱湯を浴び受傷。(1歳男児、軽症)
- 電気ポットの給湯ボタンを誤って押下し、腹部に熱湯を浴びたもので、母親が救急要請したもの。(1歳男児、軽症)
- お湯の入っているポットを触っていたところ、お湯が出て左肩にかかり火傷をしたため救急要請。(1歳男児、軽症)
- ポットのお湯の出口を触っており熱湯が右腕にかかったため父親が救急要請したもの。(1歳男児、軽症)

【国立研究開発法人国立成育医療研究センター】

- 実家に遊びに行っていた。目撃はなかったが、児の悲鳴が聞こえたため母が向かうと、ポットの前にお湯が多量に出ており、赤くなった右足を痛がっている児を発見した。(1歳10ヶ月女児、軽症)
- 台所のラックにおいていた電気ポット(90℃に設定)のボタンを押した。お湯が鼻の下と右腕にかかった。冷却してアズノールを塗った。(2歳4ヶ月男児、軽症)

これらの事故事例とは別に、事故情報データベース⁵に、ロックを解除し、給湯ボタンを押したことに起因すると考えられる事故事例が報告されている。

【事故情報データベース】

事故発生時の詳細な状況は不明であるが、給湯ロック機構を含め、当該製品に異常が認められなかったことから、乳児が当該製品に手を乗せた際、ロック解除キーを押下後、給湯キーが押下されたために湯が吐出し、やけどを負ったものと考えられる。(乳児、重症、2016年8月)

また、独立行政法人製品評価技術基盤機構でも事故情報を収集しており、電気ポットの蓋が開くことによる事故事例が報告されている。

⁵ 消費者庁と独立行政法人国民生活センターが連携して、関係機関の協力を得て実施している事業

【独立行政法人製品評価技術基盤機構】

幼児の手の届く所でポットを使用していたため、幼児がポットの上ぶたつまみに手をかけ立ち上がろうとした時に、ポットと共にバランスを崩し倒れ、その際つまみを持ち上げてしまい、ふたが開き熱湯がかかりやけどを負ったものと推定される。

(幼児、重症、2007年3月)

② 置かれていた場所

	東京消防庁	医療機関 ネットワーク等
総数	153 (42)	53 (9)
テーブル	22 (4)	7 (1)
棚・キッチン台	10 (4)	7 (4)
床	16 (7)	4 (1)
不明	105 (27)	35 (3)

注) カッコ内は要入院判断の件数

③ 発生した場所

	東京消防庁	医療機関 ネットワーク等
総数	153 (42)	53 (9)
自宅	72(20)	18(6)
ホテル	3(1)	3(1)
旅館	1(0)	1(1)
その他	10(3)	1(0)
不明	67(18)	30(1)

注) その他の内訳は、祖父母・親戚宅 9 件、友人宅 1 件、飲食店 1 件

注) カッコ内は要入院判断の件数

2. ヒヤリハットアンケートの分析（2013 年度実施）

東京都が行ったヒヤリ・ハット調査「乳幼児のやけどの危険」アンケートのうち、電気ポットに関する結果は以下のとおりだった。

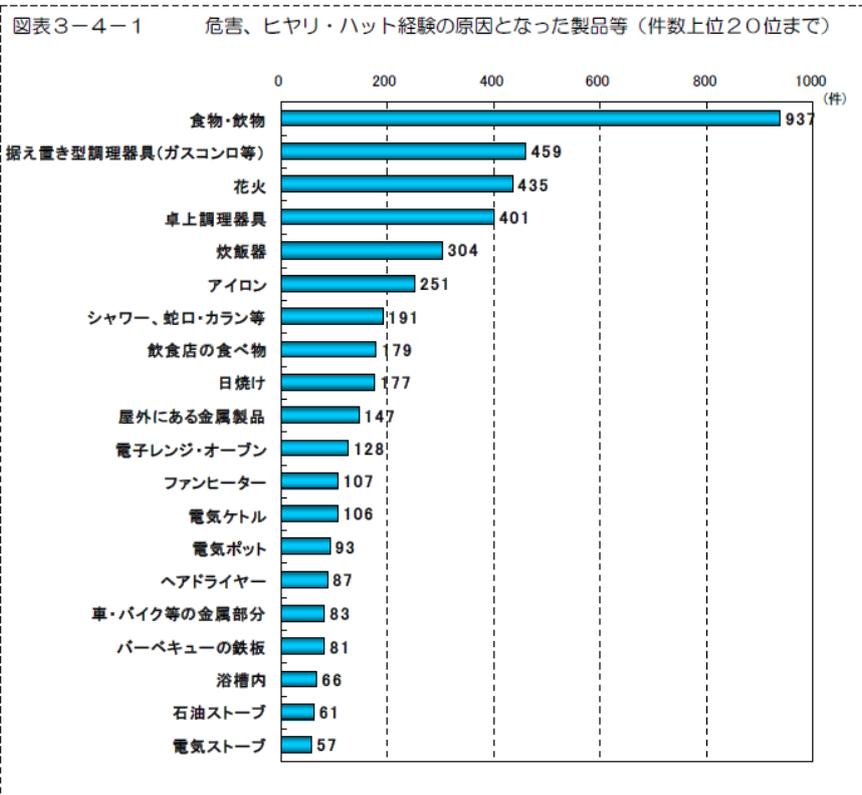
- ・調査対象者：都内、神奈川県、千葉県、埼玉県に居住する 0 歳から 6 歳（未就学児）の子供を持つ 20 歳以上の男女
- ・有効回答数 3,000 件
- ・アンケート実施期間：2013 年 8 月から 9 月まで

本調査では、回答者の子供がやけどをした又はやけどしそうになった（ヒヤリ・ハット）状況を様々な製品等ごとに、選択方式の設問で「やけどしそうになった、発火・発煙しそうになった（ヒヤリ・ハット経験）」、「やけどをしたが病院は受診しなかった」、「やけどをして病院を受診（入院なし）」、「やけどをして病院を受診して入院した」及び「やけどはしなかったが、発火・発煙した」と回答した項目の中から、経験時の年齢及び経験をした場所、その状況等を回答してもらった。

□ヒヤリ・ハット経験：実際にはやけど（発火・発煙）には至らなかったが、危険と感じた経験

□危害経験：やけどをした（発火・発煙をさせた）経験

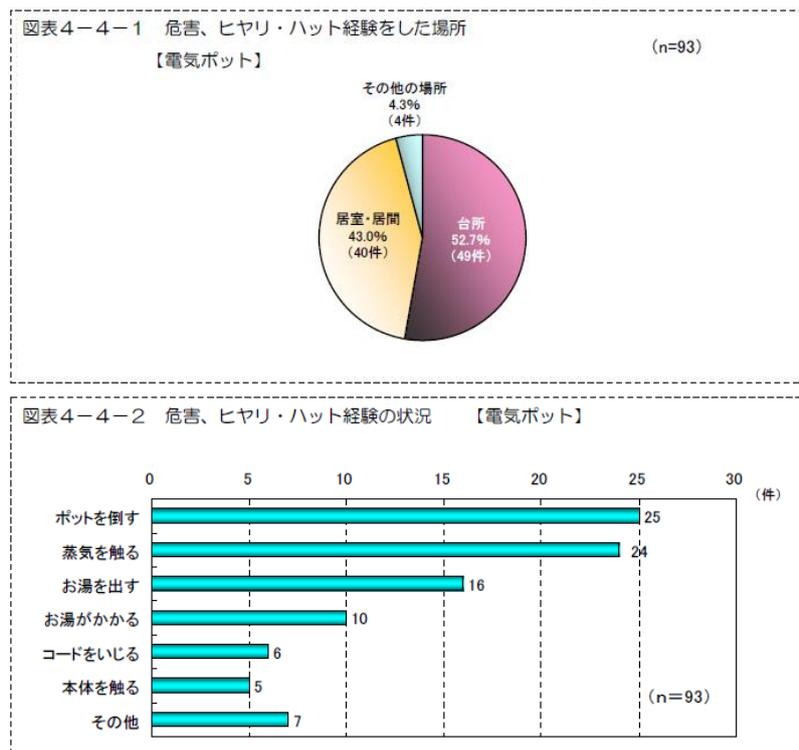
ア 集計結果（N=3000）



イ 危害、ヒヤリ・ハット経験した子供の年齢、性別

全体	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	不明	合計
電気ポット	16	17	23	15	8	4	0	10	93
電気ケトル	33	25	23	8	5	6	0	6	106
ウォーターサーバー	0	9	4	2	0	1	0	1	17

ウ 電気ポットで、危害、ヒヤリ・ハット経験した場所、状況等(N=93)



	ヒヤリ・ハット 経験	やけどはした が病院は受診 しなかった	やけどをして病 院を受診(入 院なし)	やけどをして病 院を受診して 入院した	やけどはしな かったが、発 火・発煙した	合計
電気ポット	73	13	7	0	0	93

エ ヒヤリ・ハットの主な事例

ポットを倒す	息子がハイハイしているときに、電気ポットのコードに引っかかり、ポットが倒れそうになった。磁石式コードなのでコードが抜け、ことなきを得た。(0歳 男児)
蒸気に触る	息子がポットから出ている蒸気に興味を持ち、手を出そうとした。(2歳 男児)
お湯を出す	大人がお茶を入れている姿をみて、真似したくなり、ポットに手を出した。幸い「出ない」設定になっていたのもので、やけどしなかった。(0歳 女児)

【やけどについて】

① やけどの程度と特徴⁶

やけどの程度	I 度	II 度	III 度
皮膚の様子	赤くなってひりひりする	水ぶくれ、ただれる	青白くなる
障害組織	表皮まで	真皮まで	皮下組織まで
症状	痛い・熱い	激痛がしばらくある	痛みを感じない
傷跡	数日で治り、あとにならない	1～2週間で治り、あともただれない	治療は数か月あとも残る 皮膚の移植が必要となる

② 子供のやけど⁶

子供は、大人よりも皮膚が薄く、身体の表面積も小さいため、やけどを負った場合の危険性が高まる。乳児の場合、身体の 10%のやけどで生命が危険な状態になり、脱水や熱傷ショックを起こすこともある。

目安として、子供の場合、身体の表面積に占める割合は、手のひらが 1%、片腕・片足がそれぞれ 10%、頭、顔はあわせて 20%と考えられる。

③ 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合⁷

0歳から5歳の事故では、「やけど」が「おぼれる」に次いで、中等症以上の割合が高い。

事故種別	落ちる	ころぶ	ものが つまる等	ぶつかる	やけど	はさむ・ はさまれる	切る・ 刺さる	かまれる・ 刺される	おぼれる
救急搬送 人員 (人)	2,545	2,491	1,356	1,082	482	431	242	66	30
中等症以上 の割合 (%)	11.5	6.4	7.6	5.7	18.5	6.7	7.9	1.5	60.0

※事故種別が「その他」、「不明」を除く

⁶ (出典) 東京都福祉保健局「乳幼児の事故防止教育ハンドブック」(2008年3月)

⁷ (出典) 東京消防庁「救急搬送データから見る日常生活事故の実態」(2016年)